

2018年度

梅光学院大学大学院生

募 集 要 項

10月入学

博士前期課程（修士課程）

博士後期課程（博士課程）

梅光学院大学アドミッションセンター

〒750-8511 山口県下関市向洋町一丁目1-1

TEL 083-227-1010

FAX 083-227-1120

アドミッションポリシー（本学大学院入学志望者に対する基本方針）

《大学院》

文学研究科 博士前期課程（修士）

日本文学専攻

- 1 キリスト教の信仰に基づく人間形成を基盤とする本学の基本精神を理解し、専門的な研究能力や教育能力を高め、広く社会に貢献しようとする者
- 2 日本語・日本文学・地域文化及び国語教育に深い関心を持ち、学際的な視野に立って専門的に学ぼうとする意欲のある者
- 3 教育関連や文化事業に従事することを希望する者、また、これまでの研究をさらに深め、学問的成果をまとめたいと希望する者

英米文学専攻

- 1 キリスト教の信仰に基づく人間形成を基盤とする本学の基本精神を理解し、専門的な研究能力や教育能力を高め、広く社会に貢献しようとする者
- 2 英米文学（イギリス・アメリカ等の英語文学）、英語学、英語教育に深い関心を持ち、学際的な視野に立って専門的に学ぼうとする意欲のある者
- 3 教育関連や文化事業に従事することを希望する者、また、これまでの研究をさらに深め、学問的成果をまとめたいと希望する者

《大学院》

文学研究科 博士後期課程（博士）

日本文学専攻

専攻分野（日本語・日本文学・地域文化など）について、広く学際的な視野に立って専門的研究活動を継続・深化し、高度な専門職に従事するのに必要な研究能力及びその基盤となる豊かな学識を涵養したいと考える者

英米文学専攻

専攻分野（英語・英米文学など）について、広く学際的な視野に立って専門的研究活動を継続・深化し、高度な専門職に従事するのに必要な研究能力及びその基盤となる豊かな学識を涵養したいと考える者

学位・資格

〈博士前期課程（修士課程）〉

博士前期課程の3コース

博士前期課程（修士課程）のカリキュラムに、教職コースを2007年4月から開設しました。今後ますますより高度な知識と実践力が要求される教育現場に即応できる学力と教育技術の強化をはかり、同時に少子化に伴い、厳しさを増す教員採用試験に合格できるだけの学力を身につけることを目指します。

このため、博士前期課程では、それぞれの方向性に従って、次のようなコースを設定しました。

1. 文学修士コース（修士の学位の授与）

- ・各専攻科目から30単位以上を取得し、修士論文を提出して審査に合格すれば、修士の学位が授与されます。
- ・教員一種免許取得者には、専修免許が交付されます。

2. 教職修士コース（修士の学位を授与）

- ・各専攻科目と教職に必要な科目から合計30単位以上を取得し、教材研究に関する論文を提出して審査に合格すれば、修士の学位が授与されます。
- ・教員一種免許取得者には、専修免許が交付されます。

3. 教職コース（修士の学位を必要としない人のためのコース）

- ・各専攻科目と教職に必要な科目から合計30単位以上を取得すれば、大学院教職コースの修了証が授与されます。
- ・教員一種免許取得者には、専修免許が交付されます。
- ・納入金のうち、授業料を1，2の各コースの半額にします。

※ここに言うコースとは、それぞれが独立して存在するものではありません。あくまでも履修する科目によって生じる呼称です。教職に必要な科目を除いた専攻科目は、各コースの履修者共修を基本とします。

※大学院入学後に、新たに教職課程を履修する人は、教員免許に必要とされる科目を学部で履修し、教育実習などに行く必要があります。このため、博士前期課程2年間で教員専修免許を取得できるという保証は出来ません。その点の誤解のないようにしてください。

※学費等の納入金の詳細は、この募集要項の別項（5頁）を参照してください。

〈博士後期課程（博士課程）〉

課程博士 博士後期課程で3年間以上指導教授の授業及び論文指導を受け、博士論文の審査に合格した者に与えられます。

論文博士 上記の授業や論文指導に代わる経歴もしくは実績を有し、提出論文（著書）が博士論文の審査に合格した者に与えられます。

1 募集人員

文学研究科	博士前期課程 (修士課程)	博士後期課程 (博士課程)
日本文学専攻	6名	2名
英米文学専攻	6名	2名

2 出願資格

次のいずれかの条件を満たしている者

〔博士前期課程（修士課程）〕

- (1) 大学を卒業した者、及び2018年9月卒業見込みの者
- (2) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (3) 文部科学大臣の指定した者
- (4) その他、本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

〔博士後期課程（博士課程）〕

- (1) 修士の学位を有する者、及び2018年9月修士の学位取得見込みの者
- (2) 外国において、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 文部科学大臣の指定した者
- (4) その他、本大学院において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

3 出願期間（締切日必着）

2018年7月2日（月）～7月20日（金）

4 出願手続

志願者は、出願期間中に下記の書類等を提出してください。

(1) 出願書類等

〔博士前期課程（修士課程）〕

- a 入学志願票
本学所定の用紙に必要事項を記入し、所定の位置に3か月以内に撮影した写真を1枚貼付すること。
- b 出身大学の成績証明書（厳封したもの）
- c 〈文学修士コース、教職修士コース〉自己の研究テーマについての「研究計画書」
〈教職コース〉「修学目標」
- d 出身大学の卒業証明書又は卒業見込証明書（厳封したもの）
- e TOEIC® Listening & Reading Test もしくは TOEFL iBT® を受験している場合のみ、そのスコア証明書の写し
- f 検定料 25,000 円（振替払込受付証明書）

* 原則として、受理した書類及び検定料等は返還しない。

〔博士後期課程（博士課程）〕

- a 入学志願票
本学所定の用紙に必要事項を記入し、所定の位置に3か月以内に撮影した写真を1枚貼付すること。
 - b 修士の成績証明書（厳封したもの）
 - c 出身大学院の指導教授の推薦書（厳封したもの）
 - d 博士課程で研究したいテーマについての「研究計画書」
 - e 修士論文の写し
2018年3月修士の学位取得見込みの者で、まだ修士論文を提出していない場合は、修士論文の骨子となる論文要旨（日本語で400字詰原稿用紙20枚程度、あるいはA4用紙1行35字30行8枚程度、又は英文でA4用紙1行70ストローク〔半角70字〕30行5枚程度）
なお、この場合、入学時までには修士論文の写しを提出すること。
 - f 修士の学位取得証明書又は学位取得見込証明書（厳封したもの）
 - g TOEIC[®] Listening & Reading Test もしくは TOEFL iBT[®] を受験している場合のみ、そのスコア証明書の写し
 - h 検定料 25,000 円（振替払込受付証明書）
- * 原則として、受理した書類及び検定料等は返還しない。

(2) 出願方法

- a 上記出願書類等（修士 a～f、博士 a～h）を「宛先用紙」（出願書類等に同封してあるもの）を貼付した任意の角形2号封筒（240mm×332mm）に入れて簡易書留で郵送してください。
- b 検定料は本学所定の振替払込用紙を使用し、郵便局又は銀行で払い込み、受付印のある振替払込受付証明書を入学志願票の裏面に貼付してください。

5 願書送付先

〒750-8511 山口県下関市向洋町一丁目1-1 梅光学院大学アドミッションセンター

6 試験日

2018年7月28日（土）

7 選抜試験（口頭試問）

〔博士前期課程（修士課程）〕

専攻	口頭試問
	9:30～（1人30分～60分程度）
日本文学専攻	主として専攻しようとする学問領域及び自己の研究テーマに関して行う。
英米文学専攻	

- * 試験当日は受験票を携帯すること。
- * 受付時間 8:50～9:20
- * 試験開始 10分前までに指定された教室に入り、係員の指示に従うこと。
- * TOEIC® Listening & Reading Test もしくは TOEFL iBT® のスコアがあれば、そのスコアに応じて加点して選考します。但し、試験日より過去1年以内に受験したスコアのみを対象とします。

〔博士後期課程（博士課程）〕

専攻	口頭試問
	9:30～（1人30分～60分程度）
日本文学専攻	修士論文及び専攻しようとする学問領域及び自己の研究テーマに関して行う。
英米文学専攻	

- * 試験当日は受験票を携帯すること。
- * 受付時間 8:50～9:20
- * 試験開始 10分前までに指定された教室に入り、係員の指示に従うこと。
- * TOEIC® Listening & Reading Test もしくは TOEFL iBT® のスコアがあれば、そのスコアに応じて加点して選考します。但し、試験日より過去1年以内に受験したスコアのみを対象とします。

8 試験場

本学（10ページを参照のこと）

9 合格発表

2018年8月1日（水）

可否の結果は本人に速達郵便で通知します。

（注）掲示発表等はいりません。なお、電話による問い合わせにはお応えできません。

10 入学手続期日（消印・受付印有効）

◇1次入学手続（入学届・入学金納入）締切日

2018年8月15日（水）

◇2次入学手続（学費等納入）締切日

2018年8月29日（水）

入学届及び入学金・学費等納入の手続が期間内に完了しない場合は、入学資格を失うもの
とします。

	博士前期課程 （修士課程）	博士前期課程 （修士課程 教職コース）	博士後期課程 （博士課程）
1次入学手続時納入金	150,000	150,000	150,000
2次入学手続時納入金	288,500	171,000	273,500
後期（入学後）納入金	288,500	171,000	273,500
合 計	727,000	492,000	697,000

11 学費

2018年度 大学院入学生

（単位 円）

		博士前期課程（修士課程）	博士前期課程（修士課程 教職コース）	博士後期課程（博士課程）
		第1年次納入金	第1年次納入金	第1年次納入金
入 学 金		150,000	150,000	150,000
学 生 納 付 金	授 業 料	470,000	235,000	490,000
	教 育 充 実 費	100,000	100,000	50,000
	施 設 費	7,000	7,000	7,000
合 計		727,000	492,000	697,000

- (1) 学費は諸事情により多少変更することがあります。
- (2) 原則として、一度納入した入学金は返還いたしません。

12 奨学金制度

独立行政法人日本学生支援機構大学院奨学金制度があります。

大学院では、科目等履修生及び聴講生も募集しています。
詳細は学生支援センター（TEL 083-227-1020）へお問い合わせください。

教員と専門領域

日本文学専攻

倉本 昭 教授

専攻分野 日本近世文学・近世文化史

研究分野 近世における伊勢御師階級の文芸活動・上田秋成の研究

研究内容

主著『山東京伝全集』『日本古典文学研究史大事典』『近世文学研究の新展開』（共著）。主要論文「国学者と画論」「上田秋成『ぬばたまの巻』の再検討」「安井家蔵 荒木田麗女書簡」「中川経雅の交遊録」「田上菊舎『手折菊』註解」など。特定地域における文人グループの文芸活動を、芸術史・思想史の枠組みの中で総合的にとらえる試みをしている。「関門学」の一環として、戦後関門地域の映画興行に関する調査も推し進めている。生涯学習の場における古典文化全般の教育にも従事。

中野 新治 特任教授

専攻分野 日本近代文学

研究分野 日本の「近代化」と文学

研究内容

主著『宮沢賢治・童話の読解』（翰林書房 1995 年度宮沢賢治賞奨励賞受賞）、『宮沢賢治の磁場』（翰林書房）、『透谷と近代日本』（共著 翰林書房）、『キリスト教文学を読む人のために』（共著 世界思想社）ほか。主に明治・大正期の詩歌、小説、評論を取り上げ、日本の「近代化」と文学の相関をテーマに考察。具体的には、北村透谷、森鷗外、夏目漱石、芥川龍之介、高村光太郎、中原中也などが対象となるが、近年は宮沢賢治を集中的に研究している。また、現代文学では村上春樹の小説の分析を行っている。

岡田 喜久男 特任教授

専攻分野 日本古代文学

研究分野 奈良時代の散文・韻文の研究

研究内容

出版物『古代の文学』1・2・3・5（共著）、『和歌文学とその周辺』（共著）。主要論文「古事記の世界—『罪』による非律令性の探究—」、「歌経標式序考」、「山上憶良私見」、「高橋虫麻呂伝説歌考」。奈良時代の作品の文学性や『万葉集』の主要な歌人の研究を通して、散文と韻文の結び付きに注目している。

播磨 桂子 教授

専攻分野 日本語学

研究分野 語句の意味・用法の変遷

研究内容

主著『音声言語とコミュニケーション』（共著 双文社出版）。主要論文「「よほど」の使用条件の変化」、「「結構」の応答用法出現時期における使用状況」、「「がんばる」という言葉—語義・用法・価値の変化—」『天草版平家物語における二重否定文』など。日本語の副詞を主な対象とし、使用例の収集・分析を通してその意味や用法がどのように遷り変わってきたか、またなぜそのような変化をきたしたかを研究している。特に、否定表現とのかかわりに関心があり、副詞と文末表現との呼応を見ることで、「否定／肯定」の認識のあり方を追究したいと考えている。

田村 栄章 准教授

専攻分野 日本近代文学

研究分野 近現代の小説および、植民地期朝鮮における日本語文学・評論研究

研究内容

主著『植民地期における日本語文学と朝鮮』〈単著〉、『수신하는 제국(『修身する帝国』)』〈共著〉『해방60년, 한국어문학과 일본(『解放60年、韓国文学と日本』)』〈共著〉など。

授業では明治以降の短編小説を扱う。主に演習形式での授業のため、作家と同時代状況を確認したうえで、疑問点やテキストに基づいた様々な読みをディスカッションを取り入れて、それぞれが作品から何を読み取ったかを話し合う。よって自分の意見を持って授業に参加することが基本であり、授業では他人の意見をよく理解しつつ、それに対して自分の考えをハッキリ伝える能力を養う。ディスカッションを通して《読みの多様性》を体験する。

江口 恵子 特任教授（教育学修士）

専攻分野 国語教育

研究分野 国語科教育、とりわけ作文教育

研究内容

主著『新学習指導要領中学校国語科のキーワード2 情報化に対応する作文指導』（共著 明治図書）、『教室でよむ「現代詩」～詩人の「ことば」に向き合う中学校授業実践～』（共著 明治書院）など。

日本の国語教育に関する理論や実践を対象にした研究を行う。特に、作文教育や読書指導、話す・聞くコミュニケーション能力の発達と指導について取り上げていく。また、芦田恵之助氏や大村はま氏など、教育現場で確かな国語教育実践を積み上げた方々の著書・論述をもとに、そこから国語科教育実践の核となるものを帰納的に導き出し、教師の国語科授業力の伸長に役立てていく。

英米文学専攻

H. Murrell 教授

専攻分野 アメリカ文学

研究分野 20世紀アメリカ小説

研究内容

Great American Authors

This course centers on John Steinbeck, and his 20th century realism novels. By studying his masterpiece ‘The Grapes of Wrath,’ we will discover life in the lives of immigrants, and their quest for something better. We explore the themes of family and passion as we join the family on their quest to the West. In ‘Of Mice and Men,’ we will see another harsh reality, and explore the themes of friendship, hopes and dreams, and finally of justice. Both novels end with questionable actions that leave the reader curious about motives. ‘Realism’ and ‘motives’ are also central themes to Maya Angelou in ‘I know why the caged bird sings’ and Jack Kerouac’s ‘On the road.’ Both of these novels shock the reader with updated versions of adult themes that were addressed by Steinbeck 20-30 years earlier in the century. We will focus mainly on the Steinbeck novels, but pull ideas from other novels in order to better understand not only those central themes, but also ‘justice,’ ‘innocence,’ and ‘madness.’

伊藤 道彦 特任教授（教育学修士）

専攻分野 英語教育

研究分野 English Teacher education、教材研究・開発論（言語形式の contextualization と personalization）、授業論（PPP と TBL の統合）、伝統的指導技法の再構成と継承

研究内容

生徒のやる気はプレゼンテーションで決まる。目標とする言語形式をいかに自然かつ印象的に提示するか、社会言語学・談話分析の理論的根拠に基づく場面設定の方法を研究中。C.C.Fries や Palmer の古典に論拠を置くパターン・プラクティスや GDM の技法は、確立された練習・提示の技法として保存・継承・発展されていく必要がある。contextualization, peer learning, pattern practice の3つのキーワードに基づく英語授業改善を提唱している。

久保田 眞吾 准教授

専攻分野 英語教育、通訳・翻訳

研究分野 英語教育評価システム、通訳・翻訳学

研究内容

主著 “Super Team-Teaching Handbook 1” 及び “Super Team-Teaching andbook 2”（編著 広島県立教育センター刊）。日本の学校での英語教育における ALT との効果的なチーム・ティーチングの在り方や、ICT の活用法、Can-Do リストの形式での評価方法、英検などの外部検定試験の導入方法、中・高等学校英語担当の意識調査などを研究している。また、コミュニケーション能力全般に関し、英語通訳者としての実践をふまえ、異文化間コミュニケーションの視座から見つめている。

共通専攻

李 光赫 講師（牧会学修士、M. Div）

専攻分野 神学、牧会学、教育学（イスラエルの教育）

研究分野 Teaching・Preaching・Healingに関する研究

研究内容

近代精神は、人間の偉大な思想の数々を生み出したが、神に関しては、ごくわずかしき考えようとしなかった。近代的な神との接し方は、神をまったく否定してしまわないとしても、神から遠く離れている。今日しばしば言われることは、神学は今までになかったほど強力であるということである。学問的大家たちや、出版される書物の量と質から言って、このことは、否定できないが、福音の現実性に対して、教会を保持するという、神学の根本的使命が弱体化になってから長い間経過した。しかし、神はこの世の「外に」おられるのではなく、「今ここに」、心の中におられる。本書は学問的にも高度で優れたものであるが、神とわれわれの生き方について教えてくれる一つのメッセージである。テキスト、「Knowing God、神を知ること」（J.I.パッカー著、渡部謙一訳 いのちのことば社）、聖書（新共同訳）。

教職関係

赤堀 方哉 教授

専攻分野 教育社会学、教育人間学

研究分野 教育と公共性に関する研究

研究内容

主著『飛ぶ教室』（教育出版）、『教職概論』（共著、一藝社）、「公共の精神を養う教育についての一考察」ほか。子どもたちの具体的な活動や経験が、学校という社会システムの中にどのように位置づけられていくのかについて、ボランティア活動や生徒指導場面、道徳の授業、あるいは学力論争などの多方面から研究している。その中から、ポスト近代社会の学校教育および教師の在り方を模索している。

梅光学院大学アクセスマップ

